

第6回国際塾「最先端科学とアートの出会い～ミュオグラフィアートとは?～」  
についての感想文

金光学園高等学校

2年

皿海 竣一

私が今回の国際塾で印象に残ったことは、「磁気テープ」と「ミュオンは650mしか進まないのに、なぜ地球に到達するのか」の話だ。

「磁気テープ」の話で、微粒子の分散をするために餅を絹のように伸ばす技術を活用して開発したという話があった。私は、昔から行われてきて磁気テープと関連性がなさそうな伝統技術が新しいテクノロジーを開発するカギとなっていることを不思議に感じた。私も何かアイデアが浮かばないときは考え続けるのも大事だが、時には他のことに目を向け、思いつづためのヒントを見つけていこうと思う。

「ミュオンは650mしか進まないのに、なぜ地球に到達するのか」という話では、私は、相対性理論の光速で移動すると時間の進み方が変わることを使って説明しているのを聞いて、大いに納得できたので、感動した。また、科学をアートで表現したミュオグラフィアートによって、より分かりやすく理解できた。私は現在、文理融合で国際系の学部のある大学を志望しているのだが、今回の講義でより一層そこに行って学びたいという気持ちが強まった。確かに国際系だから、英語や国際的な物事についての教養を深めることが大事だ。しかし、理系の分野にも対応できると、社会に出た時にそれが自分の強みになり、学ぶことがもっと楽しくなると思う。だから、自分の将来の夢に関係ないような分野にも触れていこうと思った。